

11 ミュージアムに関する事項

龍谷ミュージアム（以下、「ミュージアム」）は、2011年度の開館以降、本学の教育・研究施設として各種の諸事業を展開している。教育事業においては、全学必修科目「仏教の思想」や博物館学芸員課程科目等の正課授業で、多くの学生がミュージアムを活用した学習を行っている。研究事業においては、学芸員及び研究プロジェクトの研究成果を、展覧会の実施や展示図録の刊行、講演会の開催など、様々な形で社会に発信している。展覧会事業では、年間を通じた展覧会の企画運営を本格的に開始し、マスコミにも広く取り上げられ高い評価を得ている。

2013年度以降も教育・研究施設としてミュージアムがより効果的に活用されるために、魅力ある教育・研究事業を継続的に実施し、その成果について展覧会を通じて社会に発信し、ミュージアムの認知度をさらに向上させなければならない。また、ミュージアムが今後も本学の教育・研究・社会貢献施設として安定した運営を継続していくための財政的基盤を確立するためにも、広報活動に力を入れ、入館者数を確保する諸施策を計画的に展開していく。

1 教育活動について

○必修科目「仏教の思想」での活用

全学必修科目である「仏教の思想」の主要なテーマである釈尊及び親鸞の生涯と思想について、学生の理解をより深めるため、ミュージアム教員による解説講義や観覧等を実施する。

○博物館学芸員課程での活用

2013年度は、「博物館実習」における館園実習生の受入に加え、ミュージアム教員が博物館学芸員課程の科目を担当するとともに、さらに同課程との連携を強め、ミュージアム施設全般（101講義室、展示室、視聴覚教室、バックヤード等）の利用を促進する。

○各学部専攻科目や教養教育科目等における活用

各科目や演習等において、ミュージアムの講義室や展示室、視聴覚教室、デジタル機器等を活用した授業を実施する。また、実物資料を通して「仏教」を体感しつつ学習す

ることで、本学における建学の精神の涵養を図る。

○自校教育における活用

私立大学にとって極めて重要である「自校教育」に資する展示等を企画し、新入生オリエンテーション期間等に宗教部や学生部の協力を得て、本学学生の来館を促進するとともに、学びの発動につなげる活動を検討する。

○教育普及活動の推進

ミュージアムにおける教育・研究の成果を広く社会へ還元することを目的に、学外に向けて教育普及活動を継続的に実施する。好評を博している来館者に対する展示解説では本学博物館学芸員課程の学生を中心とした展示解説スタッフを育成し、より幅広い層へのアプローチを展開する。また、RECコミュニティカレッジや学外の文化事業と連携した講座等も継続的に行う。

2 研究・調査活動について

○研究プロジェクトにおける研究成果の発信

研究プロジェクトの活動を促進し、その研究成果を、展覧会事業をはじめとしたミュージアムにおける諸事業を通して公開し、学内の教育・研究活動に生かすとともに、広く社会へ還元する。

○所蔵・借用資料の収集・整理・保存・調査・研究活動の推進

仏教文化を中心とした学術資料を計画的に購入するとともに、寺院、個人等に対し所蔵品の寄贈・寄託を積極的に働きかける。ミュージアムを中心とした本学所蔵資料及び借用出陳資料に関する調査・研究を実施する。また、本願寺をはじめとした外部機関からの依頼に基づく出張調査・研究も継続的に行う。

○研究成果の多様な公開

研究プロジェクトやミュージアム教員・兼任研究員の研究成果を、展覧会事業を通じて公開するとともに、図録や図書などの刊行を行う。また講座・講演会、ミュージアムが主催もしくは共催する学会・シンポジウム・研究会などを通して広く学内外へ向けて発信していく。さらにはミュージアムホームページでの公開についても検討を行う。

○学内研究機関等との連携

学内研究者による研究成果を広く社会に発信するため、学内関係部署、各研究機関及び研究グループ等と連携し、特集展示として魅力ある展覧会を企画する。

3 特別展・平常展について

○社会に向けて発進力のある特別展の開催

魅力あるテーマの特別展を春季と秋季の年2回開催し、ミュージアムの研究活動等の成果を広く社会へ向けて発信する。春季特別展「平山郁夫 悠久のシルクロード」では、釈尊の生涯を描いた平山郁夫画伯の仏伝シリーズをはじめとした「絵画」と貴重なシルクロードの美術コレクションを展示し、さらには「文化遺産保護活動」に焦点をあてた展覧会を開催する。秋季特別展では、練り供養成立にいたる浄土信仰の流れから各地で行われてきた練り供養の歴史と実態などを実物資料と映像を用いて総覧的に展示する。

○本学の教育・研究成果を発信する平常展の開催

ミュージアムの基本コンセプトである仏教の誕生からアジアへの広がり、日本での展開をわかりやすく紹介する平常展のさらなる充実を図る。この平常展を通して、仏教文化に関する情報を本学学生・教職員をはじめ広く社会に向けて発信する。

○幅広い層へ訴求するための魅力ある企画の実現

展覧会の開催に併せて、講演会やギャラリートーク、ワークショップなどの魅力あるイベントを逐次、検討・実施する。また、研究者のほか、修学旅行生や観光客等、幅広く多様な層へミュージアムを訴求するため、専門的な内容をわかりやすく伝えることを意識した展示手法・仕掛けの開発を行い、幅広い層の入館者を確保することに努める。

4 地域での諸活動について

○地域活性化への取り組み

門前町を中心とした地域活性化に取り組む地域団体が主催する地域活性化事業に継続的に参加する。また、下京区役所が推進する下京区西部エリアの地域活性化事業につい

て、京都駅周辺の商業施設や京都水族館、風俗博物館等と連携して取り組む。

○隣接地区との交流事業

ミュージアムが立地する植柳学区の自治連合会や隣接する町内会が主催及び計画しているコンサートや近隣の歴史や文化を紹介するパネル展等の事業に参画・協力する。これにより隣接地区との交流を深め、さらにはミュージアム及び本学の認知度向上を図る。

○関係機関・団体を通じた活動の展開

ミュージアムが加盟する「京都市内博物館施設連絡協議会」や「京都・大学ミュージアム連携」、京都市、京都市観光協会が主催する諸活動や事業（京都ミュージアムロード：スタンプラリー、博物館連続公開講座、合同展、「京の夏の旅」等）と積極的に連携し活動を展開するとともに、ミュージアムの認知度を高める。

